



本学硬式野球部出身の栗林良吏投手の ドラフト1位指名を受け 安江均監督と山内壮馬コーチがコメント

本日のプロ野球ドラフト会議で、本学硬式野球部出身の栗林良吏投手（24）＝トヨタ自動車＝が広島東洋カープから1位指名を受けたことに対し、大学時代に同投手を指導した安江均監督（60）と山内壮馬コーチ（35）が祝賀コメントを出しました。栗林投手は愛知大学野球リーグで通算32勝を挙げ、2018年のドラフト会議で上位指名が期待されながらも指名を逃しましたが、今回、プロへの念願をかなえました。

安江均監督（元NTT東海監督・外野手）

栗林投手は「2年後必ずドラフト上位指名でプロに行きます」と宣言して卒業して行きました。今こうして宣言通りドラフト1位で指名されたのは、ドラフト漏れの厳しい現実を真摯に受け止め自身の課題から逃げずにプロになる目標に懸命に取り組み続けた結果だと感じます。この2年間の努力は想像を絶するものだったと思いますが、本当によく頑張ってくれました。栗林投手は学生時代から責任感が強く目標達成のための課題解決に向けた行動ができる選手でした。そういう姿勢の選手だからこそドラフトの上位に指名されたと思います。後に続く選手たちの良き手本となりました。けがをしなければプロでも十分活躍できると思います。これまでの経験を生かし名城魂を胸に「焦らず」「慌てず」「諦めず」頑張ってもらいたいです。



山内壮馬コーチ（元中日ドラゴンズ投手）

2年前のドラフトは私もショックでした。しかし、トヨタ自動車に入って経験を積むことができ、社会人野球に進んでよかったと思います。私は2017年にコーチに就任して栗林投手に出会いました。直球とスライダーだけだった彼はフォークボールとカーブを覚えました。同じような速度の球種だけでは、プロでは通用しません。もっと遅い球種を使うことで、打者が2巡目、3巡目になっても打ち取ることができます。社会人野球で投球に磨きをかけ、成長してくれました。プロでは、肩、ひじのケアをはじめ「準備力」が大切です。そのことも伝えました。けがに気を付け、プロ通算17勝の私の成績を上回る活躍を期待しています。

